

暮らしと松林をつなげる「松葉の堆肥づくり」事業について

松葉の堆肥づくり事業実行委員会

（1）共働のきっかけ・必要性

① 事業のきっかけ

- ・本市において平成23年から松くい虫による被害が大発生し、これまで行政が薬剤散布や枯損木の伐倒駆除等を行ってきたが、こうした対策は限界に達している。
- ・松林内の手入れ不足による荒廃や林内の富栄養化も問題となっており、抜本的対策の必要性や保全再生に向けて市民ニーズが高まっている。

② NPOの提案理由

- ・松林は暮らしの一部であり地域にとって大切な役割を担ってきたが、近年その役割の変化に伴う松林の荒廃に問題意識を感じている。
- ・これまで蓄積してきた堆肥化に関するノウハウを用いて松林に放置された松葉を堆肥化をすることで、地域における松林の重要性を伝えるきっかけづくりをし、連携がとれていない行政と地域をつなげることができる。

③ NPOと市の共働の必要性

- ・堆肥化に関するノウハウやイベント等の運営経験が豊富なNPOと松林の保全に関する活動実績の蓄積がある行政や地域団体が連携を図ることで、活動内容が充実すると共に短期間に課題解決が可能となる。
- ・地域によって自然的・社会的状況は異なるため、地域住民や団体に信頼がある行政と地域が求めるニーズに柔軟に対応できるNPOが連携することで、多様な地域主体の理解が得やすく、スムーズに事業を進めることが可能となる。



■松枯れ被害の様子



■荒廃した松林の様子



■目指す松林の姿

（2）事業目的

松葉の堆肥づくりを通じて地域住民が松林に対する興味・関心を高め、積極的に松林保全活動を行うことのできる仕組みをつくる。

（3）事業目標

- ① ワークショップ開催による住民の関心向上
- ② 中学校の教育プログラム導入による若い世代の関心向上
- ③ 松葉堆肥づくりとできた堆肥の地域での活用（花壇・農地）

(4) 事業内容

① 松葉の堆肥化活動

堆肥化の適正な作り方の試行と、用途の開発を実施。

【具体的な取り組み】

- ・各地区で堆肥化をしながら、できた堆肥の活用方法の開発と育成実験、分析、農家への利用推進等を行っている。
- ・効率的な堆肥の作り方や堆肥の有用性の検証、抑草効果を見込んだ松葉のマルチング（防乾燥・抑草）利用等実験を進めている。
- ・堆肥としての活用とボカシとしての活用を実施している。



■マルチングとして活用



■肥料として活用

【実験の進捗】

- ・松葉堆肥を使用した作物の発芽率が、使用していないものと比較して高い。
- ・松葉堆肥を使用した作物の生育の様子が、使用していないものと比較して良好であり、特にタマネギで効果が顕著。H28年度は、全国的にタマネギのベト病による不作年であったが、松葉堆肥を使用したタマネギは、病気にかからず豊作。
- ・松葉堆肥の成分分析の結果、作物の栄養吸収効率を上げる陽イオン交換能が一般的な堆肥と比較して高く、生育良好の一因であると考えられる。
- ・堆肥を活用した作物は肉厚でおいしい。
- ・堆肥事態も軽くて使いやすい。



■サイズ、糖度に差



上：松葉堆肥あり 下：松葉堆肥なし

② 地域連携活動

- ・6/28（水）、今津地区で自治協議会、今津元寇防塁松原愛護会と今年度以降の堆肥化の取り組みについて会議を開催。
- ・今津地区と地域の社会福祉法人野の花学園が連携し、野の花学園敷地内の畑にコンポストを新たに設置。今後、畑で松葉堆肥を使った農作物の生育比較実験等を行い、効果を地域の人にモニターしてもらおう。



■今津地区での会議



■今津コンポストの設置

③ 学校教育活動

【今津小学校】

- ・小学校内にコンポストを設置し、清掃活動時に松葉を投入し堆肥化を推進。定期的に NPO にて切り返しを実施。今後、学校での堆肥化の活用を広め定着を目指している。

【和白中学校】

- ・昨年に引き続き、総合学習において松林についての教育プログラムを実施する方向で和白中学校と 2 回協議を行った。
- ・9/7（木）1 年生の総合学習において、松林清掃の事前学習として松林の必要性や実行委員会の取り組みについて講義した。同時に地域の松林管理団体「三苦松林再生会」も地域の取り組みについて説明し、総合的な理解を深めた。



■9/7 総合学習にて講義

④ 他地域への展開

【堆肥化実施】

- ・中津市：協定を結び、堆肥づくりから菜園づくりまでの循環活動をスタート
- ・糸島氏深江地区：福岡市で堆肥づくりを学び、地域で活動をスタート
- ・東区照葉地区：コミュニティガーデン内で今津の松葉を持ち込み、住民や学校と共働で堆肥化の活動をスタート。住民自らが PR を行っている。



■中津市の活動



■照葉コミュニティガーデンへの堆肥の搬入

【民間への普及】

- ・天神地区：屋上菜園での松葉の堆肥の活用がいい効果（野菜の育成や堆肥の重量）を出しており、今後発信拠点としても見込んでいる。

(5) NPO と市の役割分担

福岡市	NPO
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供・ 広報および普及活動・ 関係機関との連絡調整 等	<ul style="list-style-type: none">・ 松葉の堆肥化、作成指導・ イベントの開催、活動 PR・ 他団体との情報交換、連携 等

(6) 担当者の声・市民の声

【担当者の声】

- ・ 地域住民の関心は向上してきており、松葉堆肥の作成方法や効果等の成果も見えてきたが、作成した堆肥を地域が持続的に活用し、現実的なメリットがあることを実感するまでに至っていないため、今年度中に道筋をつけたい。(福岡市)
- ・ 活動の中で、着実に松葉の課題や活動の必要性が伝わってきていることを実感している。今後の発信拠点も目途が立ちつつあり、丁寧な対応をしていくことで成果がでるものと考えている。そのためにも、具体的な効果を検証する必要があります。天候不順で育成実験には手を焼いているが、今年度中に具体的な効果検証し、今後につなげていきたい。また、地域と共働するには、きめ細かい交流や連絡、会議が必要であることを実感している。さらに地域の人を巻き込み、課題を解決していきたい。(NPO)

【市民の声】

- ・ コンポストの堆肥化が進まないとどう活用できるかというイメージがもてない。早い段階で完成した堆肥を使って目に見える成果を地域の住民に見せたい。(今津地区役員)
- ・ 会のメンバーも少なくなってきた。若い人に伝えていきたい。それぞれが違う立場で参加し、一丸となって松林を守っていきましょう。(三苦松林再生会)
- ・ 話をきいて松林の手入れをして守っていることがわかった。堆肥の作り方も教えてもらったので自分たちもがんばりたいと思う。(和白中学校生徒)

【移転先の声】

- ・ これまでの松林の活動だけでは、市民の関心が低く活動の参加もなかったが、菜園とつながることで、関心が高まりつつある。今後もこの活動を広げていきたい。
- ・ 松葉に親しみを感じるようになった。松林の課題は普通に暮らしていると、全くわからないが、菜園で堆肥をつくるときのストーリーを聞くことで、自分たちが地域にいいことをしているという実感ができてとても嬉しい。これから、人に話してもっと広がるといい。

(7) 30 年度への展開

- ・ 今年度で事業が終了するため、学校教育活動及び地元団体による松葉の堆肥化活動が、事業終了後も継続されるよう、アフターフォローのやり方を含めて団体と密にコミュニケーションを取りながら活動を進めていく。
- ・ 今年度、堆肥化マニュアルを作成し、自律的な運営へ移行する地元や団体に配布し事業の継続を支援する。
- ・ 松葉の課題や堆肥のつくり方を発信していく拠点準備や、移転先のさらなる拡大の支援を実施。